資料3

北海道発
コミュニティハウスの提案

誰もがいきいきと暮らせる
北海道であるために

提案者：日置　真世

地域の「生活課題」を解決する「コミュニティハウス」を制度化する

分野：地域福祉

ただし、まちづくり、まちおこし、仕事づくり、人材育成など幅広く地域再生に寄与できる制度。

必要な人が誰も使える

地域ぐるみで運営する

地域の課題や目標がみえてくる

誰もが支えて、支えられ主役になれる

コミュニティハウス

発想のきっかけ：道州制の芽発見事業

事業の具体的なゴール

地域にとって道州制を身近にするために、地域の困り事や改善点である「道州制の芽」を発見し、それを住民が、コーディネーターや行政と協働で解決していく過程をモデル化

取組第1弾：　コミュニティハウス　プロジェクト（釧路市）

芽発見事業の進展イメージ	コミュニティハウスプロジェクトの進捗過程
道州制の芽発見	課題の設定
芽があることの共有化	地元関係者による議論
芽を育てる	コミュニティハウスの試行
地域主権の森	地域と行政の協働による問題の解決 制度的な問題を発見→道州制特区提案

今日、
ここまで到着！

1　道州制の芽の発見

課題の設定：コミュニティハウスのイメージ発案

（道州制推進道民会議　日置委員の発案）

まずは言いだしっぺの私が地域の実情から提案しました！

現状・課題

障がい者、高齢者、生活保護などの分野毎の縦割、サービス対象者の厳しいより分けなどで、身近な地域で気軽に手助けできるシステムになっていない

手厚くコストのかかるフォーマルな支援と、不安定でボランティアに支えられるインフォーマルな支援の体制が二極化

過疎化、身近なコミュニティの崩壊などで、地域で生活するうえで、支援の必要な人が増えている

福祉の対象にならない人であっても一時的に手助けが必要になることがある

アイディア

障がい者、高齢者、子供などさまざまな種類の福祉サービスを必要としている人たちが、一緒に暮らせる施設

・通常の住宅程度から町内会館規模程度の建物に、法定サービススペース、地域活動拠点や法定外サービススペース、居住スペースなどが**共存するスタイル**。地域に今必要なニーズに応える

・多数の構成員の中でそれぞれの得意分野や状況に基づいて、無理のない役割分担をはっきりさせ、**協力して支え合う**。

・プロジェクトをまとめる**コーディネーターを設置**。

目指すもの

中間的でフレキシブルに多様な人たちの支援ができる地域拠点を実現

その実現プロセスを体系化し、応用することで地域の効率的な資源づくりを充実させる

2　芽があることの共有化

関係者の議論とコミュニティハウスの具体化

→ 地域で活動する様々な分野の関係者が、それぞれの情報を元に、当初のアイディアをブラッシュアップ

コミュニティハウスの可能性を確認

	今、困っている問題	こういうコミュニティハウスがあれば良い
高齢者福祉	認知症の人を受け入れる施設は、利用者が施設を選べない状況。また認知症の人に必要なサービスを提供する「小規模多機能」には住む機能が無い。 障がい者手帳の該当にならないような発達障がいを持つ方が親元を離れて暮らすことができる支援･施設が不十分 グループホームなどが無い地域に暮らす障がい者は、地元を離れないとそのような施設に入れない	高齢者向けの小規模多機能の施設を障がい者が利用できるようになった例がある。かなり重度の障がいにも対応できた。 震災の時、さまざまな障がいを持つ人が一緒に住めるような施設を設置したら、住民がお互い助け合って暮らすことが見られた。 利用者が通って、泊まって、いよいよの時に住むことができる施設が必要
障がい者支援	認知症の人は障がい者の枠組みでケアした方が良のに･･･。知的障がい者、身体障がい者と接している方が症状が進まない 独居の認知症の人が数多く増えている。家族からも施設に入って欲しいと要望する。地域からはみ出されるこのような人の受入先がなかなかない	生活福祉分野に授産型や通所型の救護福祉施設があって、そこで福祉の仕事ができて、生活保護を受けているだけでなく、障がいのある人も働ける 最初からサービスの対象を決めず作れないか。 暮らす場、相談できる場所、たまり場の3昨日が必要。それぞれの分野にそれぞれの機能があるから、これを一緒にしてはどうだろうか。 一般就労は難しい人がステップアップするための中間就労ができるようなマネージメントがあると良い
生活保護	高齢者、障がい者等が抱える困難な問題は生活保護の周辺に起きており、それに対応する自立支援プログラムは生活保護では対応が難しい 生活保護の人の自立支援は就労支援だが、なかなかすぐに仕事につける訳ではない。やってくれる組織があれば･･ 生活支援と就労支援が一体化しないと自立にはつながらない。 生活保護で批判されるのは、生活の様々な分野で扶助を受けているので、支援を受けずに苦しい人との逆転がおきている	どんな人でも誰かの役に立ちたい。それを実現できる場にしたい。 ボランティアでは続かない、事業として成り立たないとだめ。
こども家庭支援	児童援護施設が地域に対して子育て支援をしなければならない状況 児童施設は18歳までしか受入られない。そのあとの支援をする施設がない 障がい者には低料金で泊まれる福祉ホームがあるが、児童養護施設の対象児童にはそのような施設がない 母子家庭にヘルパーを派遣する時、子供の世話の派遣はできるが、体調の悪いお母さんのための派遣はできない	施設を出た後の子供の支援をする施設があったら良い。 母子を見守っていられるような施設があったら良い。
行政まちづくり	(コミュニティーハウスのアイディアを見ると) 1つの取組の中に、既存制度と馴染む所と馴染まない所がある。同じ器に同居して良いのだろうか	制度に合致する取組の部分は公の支援を受け、制度に合致しないところは独自の事業収入で運営しては？ 高齢者が多い地域で、買い物する所が無いような地域では、食堂やスーパーを運営すれば喜ばれ、地域に受け入れられる。

分野が違っても共通する課題がある。

既存の制度ではフォローできない人が気軽に支援を受けられる機能が必要

施設を持続的に運営していくために実施する事業と、利用者が社会参加できる工夫、さらに施設自体が提供するサービスの地域のニーズへの対応、の3つを上手く組み合わせる事が必要

例えば、こんな人たちが
こんなことで困っている

地域にコミュニティハウスがないと・・

3　芽を育てる
コミュニティハウス冬月荘の試行

話し合ってるだけじゃだめだ。
まずはやってみよう！！

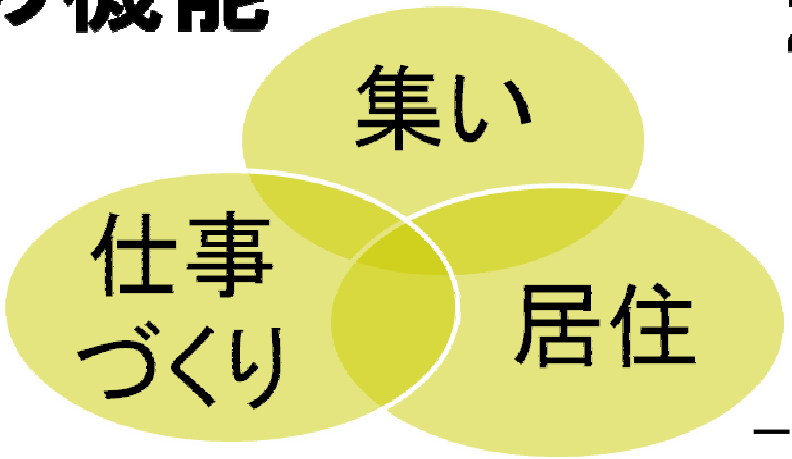
福祉のユニバーサル化

- 対象者を限定しない。必要な人が誰でも使える

循環型地域福祉システム

- 利用する人が一方的に助けられるだけではなく、活躍できる場。

3つの機能



2つのコンセプト

例えば、こんな人たちが
こんなことで困っていたけれど

地域にコミュニティハウスがあると・・

（ＮＨＫスペシャルも参考にどうぞ）

制度との関係性を
みてみると

モデル事業と検討会の中で整理された

「コミュニティハウス」とは？　その1

①既存福祉制度の枠組みとは違う新たな枠組

画一性・公平性重視の与える福祉から
個別性・柔軟重視の支え合う、つくりだす福祉への転換

②地域福祉事業メニューとして創設の可能性

社会福祉全体の方向性を定めた「社会福祉法（平成12年改正）」が新たな時代の福祉を考えているとはいえ、増進すると掲げた「地域福祉」において具体的な事業を明確化していない。

③物理的基準ではなくガイドライン基準を採用

対象者の状況、建物の面積、人の配置などといった基準ではなく、運営のためのガイドラインだけ制度化し、それをどう実現するかどう評価するかは地域に任せる新基準を採用

これがガイドライン

モデル事業と検討会の中で整理された

「コミュニティハウス」とは？　その2

定義：地域におけるあらゆる生活課題に対して生活主体とともに解決の手立てを講じる「地域拠点」であり、恒常的な「場」と常駐の「コーディネーター」を有する地域福祉事業である。

思想・目的：

①制度の隙間をつくらない＝地域による地域のためのセーフティネット機能強化
　公的援助（福祉、法務など）を必要とする人の予防線が地域福祉の重要目的
②各法関係機関との役割分担によって新社会福祉システム構築への手がかりへ
　従来型のシステムの限界を解決するツール開発として
③地域（自治体、住民）のエンパワーメント推進
　生活に最も根ざした分野の実践で地域主権実現のためのモデル的役割

実施のガイドライン（及び評価軸）：

①地域による自治的運営のシステムと評価システムを持つ
②あらゆる生活課題に必ず何らかの手立てを講じる
③直接支援メニューを3つ以上持つ
④自治体との連携システムを持つ
⑤包括的で循環的な支援視点を持つ
⑥人材養成、ネットワークづくり、まちづくり機能を持つ

制度化するための具体的提案

- 現行　社会福祉法に盛り込む

  社会福祉法　第一章第二条3の第二種社会福祉事業として位置づける

  第十章第四節を創設し、地域福祉事業として位置づける

- 北海道にガイドラインに基づいた新たな制度を創設する

などなど可能性がありますが、

あとは制度化のプロと共同で具体化したいです。

可能性いっぱい
コミュニティハウス

必要な人が誰も使えるから、制度からこぼれおちる人が減る
＝セーフティネット整備

地域ぐるみで運営するから、地域の自治力が高まる
＝地域主権の推進

地域の課題や目標がみえてくるから、進むべき方向性が明確になる
＝施策･制度の効率化

誰もが支えて、支えられ主役になれるから、市民の意識が高まる
＝エンパワーメント
市民の自立促進